

教科等横断型授業「英語」×「地理」 学習指導案

SDGsでの課題	SDGsの番号(12番)「つくる責任 つかう責任」 SDGsの番号(15番)「陸の豊かさを守ろう」				
実社会での課題	パーム油は、その使いやすさから食品や化粧品など様々な製品に使用されている。また、環境に優しい燃料として注目を集めている。しかし、パーム油生産のために、インドネシアやマレーシアでは熱帯雨林を伐採しアブラヤシを植栽するプランテーションが行われており、森林伐採や生物多様性の消失を含めた環境破壊が深刻な問題になっている。持続可能なパーム油の生産・消費のために、それぞれの立場がどのように取り組んでいくかが課題である。				
生徒に身に付けさせたい資質・能力	パーム油の生産・消費に係る様々なステークホルダーの立場(環境保護団体／農家／農場経営者／お菓子メーカー／消費者)から現状や課題を分析させることを通して、持続可能な社会を実現するために必要なこと、自分たちができることについて考えさせる。				
主題(教材)	持続可能なパーム油の生産・消費のために何ができるだろうか。				
指導過程	導入	本時の目標を確認する。	5	○主体的に英語を使う雰囲気を作らせる。	
	展開	1 ディスカッション① 異なる立場の人と話し合う。	15	○役割分担を明確にし、英語での話し合いや質疑応答に全員参加させる。 ○相手の意見を正しく理解できているか確認しながら話し合いを進めさせる。 ○同意や譲歩の表現を用いて、相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を伝えさせる。	○ワークシート ○プレゼンテーション資料
	展開	2 ディスカッション② 同じ立場の人と話し合う。	15	○ディスカッション①で聞いたことを要約して伝えさせる。 ○ディスカッション①で聞いたことをもとに、それぞれの立場における現状の捉え方や願いに違いがあることに気付かせる。	
	展開	3 それぞれの立場からの考えを発表する。	10	○話し合いを通してどのような発見があったかを発表させる。	
	整理	本時のまとめをする。	5	○参加した留学生からフィードバックをもらい、今後の学習につなげさせる。 ○本時の学習内容を振り返らせる。	
備考	愛媛県教育委員会の外国人講師等による英語力向上講座を活用して、愛媛大学留学生を講師として招き、ディスカッションに参加してもらった。				